

哀歌 第3章 21～23節a

「私はこれを思い返す。それゆえ、私は待ち望む。私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい。」

感染症の数値は日ごとに変化する。数値が減少したかと思えば、増加傾向となり、その勢いが不気味に強まっている。世界の現状は身近な数値を遥かに越えて、ことさら厳しい。さらなる状況の悪化の兆しが見えている。

どこかの地で朗報があったとしても、他の地域では鬪いの日々である。発展途上国や後進国と称される地域、さらには難民の間に感染症が拡大してゆくと、どのような災禍が起こるのか、想像し難いものがある。

感染症が起こる前から、長い間戦火にある者たち、貧困のなかでの生活を余儀なくされる者たち、国を追われて難民となった人々、住む家を失った子どもたちがいる。メディアはあまり取り上げてはいないが、どの国にあっても、社会的弱者の間に感染症は大打撃をあたえている。

それでも、それゆえ、今日の歩みをここでなしつつ、私は主を待ち望む、と祈る。祈る場を与えられている者の恵みである。主のあわれみは尽きず、朝ごとに新しい。